

若手経営者塾通信「NeXT」

No.5

株式会社 環境内水面資源研究所 佐藤 嘉

第7期生



経歴

佐藤さんの経歴は極めて濃密だ。地元の高校を卒業後、県外の国立大学、大学院へと進学。金属工学の分野で博士号を取得した。その後大学の研究員等を経てリターーン。酒田工業高校、鶴岡工業高校、羽黒学園、鶴岡工業高等専門学校の講師を務め、専攻以外の分野でも様々な知見を得た。その知見を活かし、地元製造業の研究開発や生産ライン改善、補助金活用等のコンサルも行いながら、幅広く経験と知識を蓄積してきた。

試験管レベルでは意味がない！

佐藤さんは大学院や地元工業高校で研究を続ける中、ある信念を抱くようになった。それは、「試験管の中で幾ら研究を繰り返しても、社会の課題を根本的に解決することにはならない。」という想いである。自分がこれまで打ち込んできた研究成果を社会実装しなければならない。そのような考え方から、自ら起業することを決意。2事業の立ち上げを経て、現在は(株)環境内水面資源研究所(以下..環研)の代表取締役を務めている。

地球規模の課題を「本気」で考える



研究所内には海藻に関する研究成果がびっしり。

環研が取組む課題は壮大だ。地球温暖化への挑戦である。今取り組んでいる事業はブルーインフラの社会実装だ。陸の植物より二酸化炭素の吸収効率が高い海藻を海中に植えることで、カーボンニュートラルを達成しようというのだ。一見壮大すぎて俄かに信じられないが、国土交通省の実証実験事業に選定され、酒田北港の一角で実証実験を行っている。日々メディアで見聞きする脱炭素問題。普通に生活していると、どこか遠い問題に感じてしまうが、崇高な理念、強烈な使命感の下、地球規模の課題に本気で挑戦する企業がこの庄内にある。そう考えると、急に身近な問題に思えてくるから不思議である。

想いが出会いを引き寄せる

「小学校か中学校か、昔から漠然とした興味はありません。」専攻は金属工学であり分野としては近いと言えないが、環境のことは常に頭の片隅にあった。ある時、そんな佐藤さんの環境への想いを知る企業の社長から、地元の名士(自称:迷士)、山澤清という人物を紹介された。環境に対する想いを同じくする佐藤さんと山澤氏は意気投合。環研の立ち上げを力強く後押ししてもらった経緯がある。山澤氏は現在も研究所の場所提供や共同研究企業の紹介等、様々な経営リソースの提供を行っている。

若手経営者塾



社会課題と向き合う「チーム環研」
左から石川氏、佐藤氏、山澤氏

新しいチャレンジ

佐藤さんの次の挑戦はブルーインフラ事業の先にあります。魚介類が集まる人工漁礁を沈め、豊かな海を復活させようという取組みである。人工漁礁に必要な技術の特許まで取得している。ブルーインフラで地学んだこと、得た繋がりをフル活用しているようだ。

講師である井上淨氏から、(株)リバネス主催のビジネスプランコンテスト、テックプランナーへの誘いを受け、現在準備中のこと。環研は若手経営者塾で学んだこと、得た繋がりをフル活用しているようだ。

株式会社 環境内水面資源研究所
住 所／鶴岡市羽黒町市野山字山王林 125-1
電 話／090-6224-0606
Mail／satoyo.tsuruoka.nct@gmail.com

つなぐ力で100年幸せな街づくり
鶴岡信用金庫
<https://www.tsuruoka-sk.jp/>